

なみの会



東京理科大学工学部建築学科 地震工学系研究室 OB/OG 会

第一回合同 OB/OG 会の開催に向けて

井口道雄

皆さんお変わりありませんか。

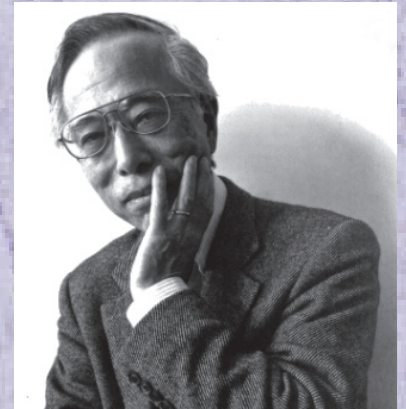
早いもので退職して6年半が経ちましたが、この間に一度、井口研のOB/OG会を開きました。それから5年近くが経過し、日頃ご支援を頂いているOBの方々から、そろそろ次のOB/OG会を開きませんかとのお話があり、気には掛けていたのですが、色々の事情からそのままになっていました。

先般、永野先生から永野研と旧井口研の合同のOB/OG会という思いも寄らぬご提案があり、まさに渡りに舟の思いで喜んで賛成しました。その後も永野先生が中心となり、日程の調整、会場の予約など準備を着々と進めていただき、第一回目の合同のOB/OG会を開催することになりました。合同のOB/OG会の名称を「なみの会」としたのも少し洒落ていて、地震工学の研究室のOB/OG会にふさわしい名前と思っています。

小生の後任の永野先生についてはここで多くを語る必要もないのですが、地震工学の分野で今まさに精力的に研究を行っている新進気鋭の第一人者です。教育面でも、分かりやすい教科書を次々に著すなど、多方面に渡り積極的に活動しています。

第一回の「なみの会」では、懇親会に加えて気楽な研究発表の場を設けるなど、今までの井口研OB/OG会にはない新たな企画が盛り込まれています。OB/OG会は同時期に同じ環境の下で過ごした仲間たちの繋がりの場でありますし、先輩後輩の縦の繋がりの機会でもあります。この機会に、久しぶりにひょっこり顔を出してみても如何でしょうか。特に今回は「なみの会」の発起の会でもありますので多くの方の参加を楽しみにしています。

今回も旧井口研OB/OGの名簿の整理などの庶事は涌井栄治氏と、昨年4月から理科大理工学部の助教に就任した佐藤利昭氏の労を煩わしました。ご支援に厚くお礼を申し上げたいと思います。



1940年生まれ
1964年早稲田大学卒業
1966年同大学院修士課程修了
1969年イタリア留学(イタリア政府留学生)
1970年早稲田大学大学院博士課程退学
1971年東京理科大学理工学部専任講師
1974年東京理科大学理工学部助教授
1978年Univ. of Calif. San Diego 客員研究員
1985年東京理科大学理工学部教授
2009年東京理科大学名誉教授
共著に『入門・建物と地盤との動的相互作用』、『建築構造力学の最近の発展』、『建築構造力学演習/教科書』ほか
地震工学・耐震工学/工学博士

技術を受け継ぎ安心・安全な社会へ

永野正行

2008年に井口先生の研究室を引き継ぎ、理工学部建築学科で地震工学系の研究室を立ち上げました。それ以前は鹿島建設に20年間勤め、主に耐震を専門とする技術部門で、地震動、地盤震動、地盤と建物の動的相互作用に関わる研究、超高層建物等の耐震性評価等の研究・業務に携わってきました。

大学赴任当時は全てが新しいことばかりで、慣れない事務手続き、講義準備、学生指導等に追われ、周りを見渡す余裕はありませんでした。現在は徐々にですが研究室の学生やOB/OGも増え、研究成果も生まれつつあります。現在も井口先生の人脈を通じた研究を多く行っておりますが、研究室単位でまとまって集まる機会はそれほどありませんでした。

2011年東日本大震災を契機に、地震工学の重要性が改めて認識されています。既存の技術を継承しつつも、新しい技術を取り入れていく必要がありますが、このときに個人でできることには限界があります。そこで、①現在・過去・未来の人・技術の繋がりを重視し、②将来の大震災に対し安心・安全な社会を目指すことを目的に、当研究室と井口研による合同OB/OG会である「なみの会」を設立することにいたしました。本年度は建築学会大会1週間後の9月中旬に第1回目の研究会および懇親会を開催する予定であります。研究会ではOB/OGの皆様に発表をお願いし、最新の地震工学に関するトピックを議論する場にしたいと考えております。もちろん難しい話は抜きにして懇親会だけ参加する形でも構いません。多くの皆様の参加をお待ちしております。



1964年生まれ
1986年早稲田大学卒業
1988年同大学院修士課程修了
1988年鹿島建設
2008年東京理科大学理工学部教授
共著に『建築振動を学ぶ-地震から免震、制震まで-』、『入門・建物と地盤との動的相互作用』、『建物と地盤の動的相互作用を考慮した応答解析と耐震設計』ほか
日本建築学会奨励賞(2000年)、日本建築学会賞(論文)(2013年)、地震工学・耐震工学/博士(工学)/一級建築士

退職の折、野田建築会の会報に退職の辞を寄せたことがあるが、その中で65歳から75歳までの10年間で人生の中で最も幸福な期間であるというようなことを書いた覚えがある。この掛け替えのないGolden Decadeというべき10年間の大半をすでに使い果たしたわけであるが、この間大きな病気もせずにご過ごせたことは有り難いこととと思っている。またそのことにも増して、多くの方々から有形無形のご支援を戴いてきたことは、名状しがたいほどに有り難いことである。

同時に、改めて振り返ってみると、“少年老い易く学成り難し”を実感した10年でもあった。退職を間近に控えた数年間は研究科長やら学長の下での大学業務の補佐などの仕事に忙殺され、大半の時間を学務に費やせざるを得ない状況にあったこともあって、正直退職を待ち望んでいたのである。退職して不毛の雑務から解放され、これでやっと遣り残した研究の仕事に復帰し、集中して取り込めると意気込んでいたのであるが、そして望み通りその立場が与えられたのであるが、空白の期間が長かったせいか、中々思い通りには行かない吾人に忸怩たる思いをし、そのフラストレーションが今でも続いている。“学成り難し”である。

人生のGolden Decadeの残りはわずかであるが、木造建物の耐震性能評価の研究、あるいはライフワークとしている「建物への有効入力動に関する研究」には強い思いがあって、細々ではあってもこれからも続けてゆきたいと思っている。特に、建物への有効入力動を明らかにする研究は残された大きな課題であって、耐震設計上重要であることは今では多くの人が認めるところであるが、問題の大きさの割には研究者も少なく、また研究の進展も捗捗しくない。このあたりのことは、日本建築構造技術者協会の機関誌であるStructureの最新号(2014年4月号)に特別寄稿文として拙稿を寄せているので、一読していただければ幸いである。

いずれにしても、Golden Yearsの10年延長とまではいわないが、Silver Yearsでも良いからあと5年ぐらいのおまけはないものかと、誰にお願いするでもなく、欲張りなことを考えている。

2013年度 永野研究室の活動概要

永野研究室では、震源断層での地震波発生から、大きく揺れる建物の中の人々の体感までを総合的に調査し、地震に屈しない未来を目指し日々研究に励んでいます。超高層集合住宅の地震被害に関する研究では、3.11地震時の室内被害に関するアンケート調査を行い、居住者の揺れの体感や家具の転倒状況と建物の揺れとの関係を明らかにしました。木質建物の耐震性に関する研究では、実大木造軸組架構の振動台実験に基づき、次世代を担う制振装置の開発に取り組んでいます。そのほか、理論計算による想定地震時における各地の揺れの推定や、地震時の液状化地盤における杭基礎の耐震性に関する研究を行っています。2013年には日本建築学会賞を受賞し、これらの研究成果は対外的にも高く評価されています。

2013年度の研究概要

- 超高層集合住宅の室内被害と居住者の体感に関する研究
- 制振装置を付加した木造軸組架構の耐震性向上に関する研究
- 理論計算に基づく地震波と長周期地震動の発生メカニズムに関する研究
- ヘルスモニタリングに基づく杭基礎の損傷評価に関する研究

(UNGA BOOK2013年度版より転載)



木造振動実験 (2013.8)



学会賞講演会 (2013.9)



登別ゼミ合宿 (2013.9)

永野研究室では、企業等との共同研究も積極的に進めています。都市再生機構 (UR) とは2011年東日本大震災以降、共同研究契約を交わし、超高層集合住宅の大地震時の応答や振動台搭乗実験やアンケート調査等に基づく体感や心理調査を行っています。強震観測を共同で実施しているゼネコン各社 (大林組、鴻池組、戸田建設、前田建設工業、三井住友建設、安藤ハザマ) や京都大学、工学院大学と研究会を組織し、今後発生する大地震に備え精力的に研究を進めています。この他にも共同研究を実施し、多くの研究成果を挙げています。

2013 年度永野研究室 発表論文等成果

宮本裕司, 永野正行, 藤谷秀雄, 吉村智昭:「建築振動を学ぶ-地震から免震、制震まで-」, 理工図書, 2014.3

山形有紀, 佐藤利昭, 本郷貴之, 木下貴博, 永野正行, 北村春幸: 免震建物の擁壁衝突時における地盤との相互作用の影響に関する研究, 2013 年度日本建築学会関東支部研究報告集 I, pp.353-356, 2014.2.20-21, 東京・日本大学理工学部

木下貴博, 佐藤利昭, 永野正行, 北村春幸: 観測記録に基づく地盤との相互作用を考慮した 7 階建免震建物の上下応答解析モデルの作成と検証, 2013 年度日本建築学会関東支部研究報告集 I, pp.329-332, 2014.2.20-21, 東京・日本大学理工学部

山根義康, 永野正行, 肥田剛典, 保井美敏, 山本健史, 井川望, 田沼毅彦: 2011 年東北地方太平洋沖地震時における超高層集合住宅の室内被害の分析と建物応答との対応, 日本建築学会技術報告集, 第 20 巻, 第 44 号, pp.67-72, 2014.2

野木淑裕, 永野正行, 肥田剛典, 山本健史, 保井美敏, 田沼毅彦, 渡辺一弘: 東北地方太平洋沖地震を経験した超高層集合住宅の損傷推定とその後の耐震性能評価, 日本建築学会技術報告集, 第 20 巻, 第 44 号, pp.49-54, 2014.2

肥田剛典, 永野正行: 部分空間法を用いた建物の固有振動数と減衰定数の同定精度に関する基礎的検討 - N4SID 法と Ordinary MOESP 法の比較 -, 日本地震工学会・大会 2013, pp.287-288, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

吉村智昭・永野正行・久田嘉章・早川崇・川辺秀憲・Seckin Ozgur CITAK・河路薫・秋山伸一: 紀伊半島南東沖地震を対象とした数値解析手法のベンチマークテスト-大阪平野, 濃尾平野の結果-, 日本地震工学会・大会 2013, pp.179-180, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

天藤潤一・永野正行・後藤賢人・上林宏敏: 東北地方太平洋沖地震時の大阪平野沿岸部における長周期地震動増幅の成因, 日本地震工学会・大会 2013, pp.191-192, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

後藤賢人・永野正行: 南海トラフ周辺の付加体が大阪平野内の長周期地震動に与える影響評価, 日本地震工学会・大会 2013, pp.193-194, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

山根義康・永野正行・肥田剛典・田沼毅彦: 超高層 RC 造集合住宅の設計用動解モデルの分析, 日本地震工学会・大会 2013, pp.103-104, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

加藤淳・佐藤利昭・真崎雄一・井口道雄・肥田剛典・永野正行: 粘弾性制振装置の温度変化が建物応答及びエネルギー吸収量に及ぼす影響, 日本地震工学会・大会 2013, pp.325-326, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

渡邊肇一郎・肥田剛典・佐藤利昭・加藤淳・真崎雄一・御子柴正・井口道雄・永野正行: 粘弾性制振装置を付加した 1 層木造軸組架構の振動実験による性能評価, 日本地震工学会・大会 2013, pp.327-328, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

小山西央・永野正行: 薄層法を用いた点加力による静的応力解の精度検証, 日本地震工学会・大会 2013, pp.341-342, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

坂本あいの・永野正行・肥田剛典・山根義康・岩岡竜夫: アンケート調査に基づく 2 地震時における超高層住宅の揺れ・被害と今後の地震被害に関する意識分析, 日本地震工学会・大会 2013, pp.213-214, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

成田麻衣子・永野正行・上田遼・加藤研一・大塚康弘・引間和人・加瀬祐子: 動力学的震源モデルに基づく震源近傍の強震動に関する基礎的検討-パラメータ解析による断層破壊とパルス性地震動-, 日本地震工学会・大会 2013, pp.363-364, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

上田遼・加藤研一・大塚康弘・永野正行・成田麻衣子・引間和人・加瀬祐子: 浅部のすべり弱体化が破壊性状と震源近傍の強震動に与える影響, 日本地震工学会・大会 2013, pp.365-366, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

吉田昂希・谷田貝淳・肥田剛典・田村修次・永野正行: Penzien モデルに基づく遠心載荷実験のシミュレーション解析と建物種別による応答力の違い, 日本地震工学会・大会 2013, pp.225-226, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

山本健史・保井美敏・永野正行・肥田剛典・田沼毅彦・渡辺一弘: 超高層 RC 造集合住宅を対象とした応答力の分離と重ね合わせに関する基礎的検討, 日本地震工学会・大会 2013, pp.233-234, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

北堀隆司・永野正行・田沼毅彦: 1 階の本震記録が欠測した超高層 RC 造建物のシミュレーション解析による応答推定, 日本地震工学会・大会 2013, pp.153-154, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

永野正行: 趣旨説明, 東北地方太平洋沖地震の観測波と南海トラフ沿い巨大地震の予測波, 講習会「講習会: 長周期地震動と超高層建物の対応策 - 専門家として知っておきたいこと -, 2013.11.1, 名古屋・昭和ビル 9 階ホール, 2013.10.25, 建築会館ホール

永野正行・他: 「1.2 首都圏における長周期地震動の分析」, pp.66-72, 「1.4 長周期地震動予測にかかわる最近の動向」, pp.95-99, 「5.5 超高層建物の室内安全性評価」, pp.273-285, 「付録 4 強震記録とアンケートに基づく超高層集合住宅の調査結果」, pp.470-482, 「付録 6 収集した建物の観測記録一覧」, pp.487-513, 大振幅地震動と建築物の耐震性能評価-巨大海溝型地震・内陸地震に備えて-, 日本建築学会, 2013.10

永野正行, 肥田剛典, 田沼毅彦, 渡辺一弘, 井川望, 伊藤真二: 2011 年東北地方太平洋沖地震時の東京湾沿岸部における基盤波推定と長周期地震動の地盤増幅特性, 日本建築学会技術報告集, 第 19 巻, 第 43 号, pp.849-854, 2013.10

Hida, T, S. Tamura and Nagano, M.: Effects of Pile Damage and Input Motion Characteristics on Response of Base-Isolated Structure Based on Centrifuge Tests, Proc. of 13th World Conference on Seismic Isolation, Energy Dissipation and Active Vibration Control of Structures, Sendai, Japan, 2013.9.24

永野正行: 主旨説明/大振幅地震動と耐震設計の諸課題/入力地震動評価の現状と課題, 講習会「大振幅地震動と建築物の耐震性能評価 - 巨大海溝型地震・内陸地震に備えて」, 2013.9.9, 建築会館ホール

永野正行: 「3.3 強震動予測法と予測地震動のばらつき」, pp.42-64, 「8.3 自由記載に基づく意識的分析」, pp.360-367, 大振幅地震動と建築物の耐震性能評価-巨大海溝型地震・内陸地震に備えて-, 日本建築学会, 2013.9

永野正行: 日本建築学会賞受賞講演, 「地震動の増幅特性と地盤・構造物の地震時挙動の解明に関する一連の研究」, 2013.8.31, 北海道大学

吉田昂希, 谷田貝淳, 肥田剛典, 田村修次, 永野正行: 液状化地盤における杭の損傷が地震時応答性に及ぼす影響 その 1 遠心実験の概要と応答変位法による検討, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 20285, pp.569-570, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

谷田貝淳, 吉田昂希, 肥田剛典, 田村修次, 永野正行: 液状化地盤における杭の損傷が地震時応答性に及ぼす影響 その 2 応答変位法による損傷杭の曲げ剛性の同定, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 20286, pp.571-572, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

後藤賢人, 永野正行: 3 次元差分法による東北地方太平洋沖地震時の大阪平野における長周期地震動の再現解析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21095, pp.189-190, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

永野正行, 上林宏敏: 東北地方太平洋沖地震時の大阪平野内の長周期地震動特性と東西断面の地盤増幅に着目したシミュレーション解析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21096, pp.191-192, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

野木淑裕, 永野正行, 肥田剛典, 保井美敏, 山本健史, 田沼毅彦: 東北地方太平洋沖地震における超高層集合住宅の立体フレーム解析に基づく損傷推定, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21142, pp.283-284, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

小林ひかる, 三浦弘之, 肥田剛典, 三浦弘之, 翠川三郎, 永野正行, 正月俊行: アンケート調査に基づく東北地方太平洋沖地震の際の超高層建物での居住者・室内物品への影響の評価, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21145, pp.289-290, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

山根義康, 永野正行, 肥田剛典, 保井美敏, 山本健史, 井川望, 田沼毅彦: 東日本大震災時における超高層集合住宅の建物応答推定に基づく室内被害の分析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21146, pp.291-292, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

上田遼, 加藤研一, 大塚康弘, 永野正行, 引間和人, 加瀬祐子: 地表付近の断層破壊が震源近傍の強震動に与える影響 - 動力学的断層モデルを用いた基礎的検討 -, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21151, pp.301-302, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

木下貴博, 佐藤大樹, 本郷貴之, 永野正行, 北村春幸: 免震建物の上下応答における建物モデルと地盤との相互作用の影響評価, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21264, pp.527-528, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

金子知宣, 永野正行, 上林宏敏, 肥田剛典, 田沼毅彦: 微動観測に基づく超高層鉄筋コンクリート建物の強震時における動特性変化量推定の可能性 その 1 微動観測概要と固有周期の分析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21294, pp.587-588, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

上林宏敏, 永野正行, 肥田剛典, 田沼毅彦, 金子知宣, 保井美敏, 山本健史: 微動観測に基づく超高層鉄筋コンクリート建物の強震時における動特性変化量推定の可能性 その 2 動特性変化量の推定, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21295, pp.589-590, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

山本健史, 保井美敏, 永野正行, 肥田剛典, 田沼毅彦, 渡辺一弘: 軟弱地盤に建つ超高層 RC 造集合住宅の地震観測記録のシミュレーション解析 ロッキング入力力を考慮したシミュレーション解析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21317, pp.633-634, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

井口道雄, 佐藤利昭, 真崎雄一, 浦井崇治, 加藤淳, 肥田剛典, 永野正行: 制振装置を含む木造軸組架構の振動台実験による性能実証試験 その 1 試験体および実験の概要, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21467, pp.933-934, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

真崎雄一, 井口道雄, 佐藤利昭, 浦井崇治, 加藤淳, 肥田剛典, 永野正行: 制振装置を含む木造軸組架構の振動台実験による性能実証試験 その 2 荷重-変形関係の分析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21468, pp.934-935, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

浦井崇治, 佐藤利昭, 真崎雄一, 井口道雄, 加藤淳, 肥田剛典, 永野正行: 制振装置を含む木造軸組架構の振動台実験による性能実証試験 その 3 固有振動数と等価剛性・等価減衰の分析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21469, pp.937-938, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

加藤淳, 佐藤利昭, 井口道雄, 真崎雄一, 浦井崇治, 肥田剛典, 永野正行: 制振装置を含む木造軸組架構の振動台実験による性能実証試験 その 4 フレーム解析モデルの検証とエネルギー吸収量の評価, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21470, pp.939-940, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

肥田剛典, 永野正行, 金子知宣, 田沼毅彦: 超高層集合住宅における 2011 年東北地方太平洋沖地震時のアンケート調査に基づく地震時避難行動不可能率, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21569, pp.1137-1138, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

佐藤利昭, 中島裕貴, 永野正行: 木造住宅の長期的な耐震安全性に関する研究 - ホーボルト接合部の応力緩和試験 その 1, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 22007, pp.13-14, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

中島裕貴, 佐藤利昭, 永野正行: 木造住宅の長期的な耐震安全性に関する研究 - ホーボルト接合部の応力緩和試験 その 2, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 22008, pp.15-16, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

佐藤利昭, 永野正行, 井口道雄, 真崎雄一: 粘弾性制振装置を付加した木造住宅の地震応答解析 - 木造制振住宅の耐震設計手法の構築 -, 日本建築学会構造系論文集, 第 78 巻, 第 690 号, pp.1449-1458, 2013.8

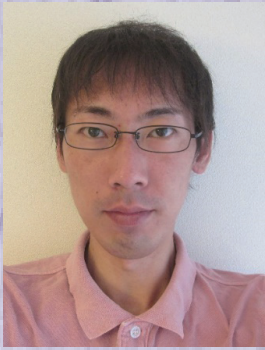
肥田剛典, 下保亮太, 吉田昂希, 谷田貝淳, 田村修次, 永野正行: 部分空間法に基づくシステム同定手法を用いた杭基礎の損傷評価, 第 48 回地盤工学研究発表会, 富山国際会議場, 2013.7.23-25

山本健史, 永野正行, 保井美敏, 肥田剛典, 田沼毅彦, 渡辺一弘: 軟弱地盤に建つ超高層 RC 造集合住宅の地震応答評価と被害との対応 -2011 年東北地方太平洋沖地震時の強震記録に基づく検討-, 日本建築学会技術報告集, 第 19 巻, 第 42 号, pp.447-452, 2013.6

上林宏敏, 永野正行: 超高層建物の強震観測記録に基づく増幅特性と動特性評価, 日本建築学会技術報告集, 第 19 巻, 第 42 号, pp.435-440, 2013.6

永野正行: 地震動の増幅特性と地盤・構造物の地震時挙動の解明に関する一連の研究, 2013 年日本建築学会賞(論文)業績紹介, 2013.5., 日本建築学会

ごあいさつ 建築学科 構造系助教



肥田 剛典
 1980年 群馬県富岡市生まれ
 2003年 信州大学工学部社会開発
 工学科建築コース卒業
 2005年 千葉大学大学院自然科学
 研究科建築専攻修士課程修了
 2005～2007年 国土交通省
 関東地方整備局 営繕部
 2007～2010年 京都大学大学院
 工学研究科都市環境工学専攻
 博士後期課程, 博士(工学)
 2010～2011年 京都大学防災
 研究所・PD 研究員
 2011年～(現職) 東京理科大学
 永野研究室 助教

私が永野研究室の助教に着任して、早くも3年の月日が経ちました。東京理科大学に来る前は主に液状化地盤における杭基礎の耐震性に関する研究をしていましたが、永野研究室では超高層RC造建物や木造建物の研究にも携わらせていただき、随分と研究の幅が広がったように思います。

これに加えて、最近は建物の構造ヘルスマニタリングに関する研究をしています。これは、建物の地震時の揺れを計測し、構造的な健全性を評価するというものです。この手法に関する新たな知見を探るべく、日々研究に励んでおります。

また、私のモットーは学生と垣根を越えた関係を築き、研究をしやすい雰囲気を作ることです。言わば永野研究室の潤滑油のような存在になりたいと思っております。

今後も研究・教育とも精進して参る所存ですので、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



佐藤 利昭
 1982年 神奈川県横浜市生まれ
 2005年 東京理科大学 理工学部卒業
 2007年 同大学院・理工学
 研究科・修士課程修了
 2007～2010年
 MASA 建築構造設計室・技術主任
 2009～2012年
 東京大学大学院・工学系研究科
 博士課程, 博士(工学)
 2010～2012年
 日本学術振興会・特別研究員
 2012～2013年
 東京理科大学・PD 研究員
 2013年～(現職)
 東京理科大学北村研究室 助教

2007年に井口研にて修士課程を修了し、現在北村研(富澤研, 中田研と言え、少しは親しみが沸きますでしょうか?)の助教として理科大に務めております。学生時代は、決して真面目では無かった自覚がありますが、ここ10年間で井口先生と最もお話したOB/OGの1人ではないかと思っています。

井口先生の退職記念でお世話になった諸先輩方には、同じくOB/OGである涌井さんと同じ設計事務所の所員として認識されておりますでしょうか。その後、貯金を切り崩して学位を取得し、理科大の繋がりがあって、一昨年度、永野先生に研究員として拾って頂き、その後、北村先生にまた拾って頂くと、振り返れば綱渡りの人生を歩んでいるように思います。

今後もおそらく行き当たりばったりが続くと思いますので、頼りがいのある諸先輩方に、この場を借りて、私の将来のお願いしつつ筆を置きたいと思っております。

2014年度永野研究室メンバーと研究テーマ

2014年度は建築学科全体の卒研着手者の数が多く、当研究室にも14名の卒研生が配属されました。従来からの研究テーマである超高層RC造、地盤震動、杭基礎、木造、ヘルスマニタリングに加え、本年度から連携大学院の客員准教授として石原直先生(建築研究所)から、近年の建物被害に関する重要テーマの1つである天井落下についてご指導を頂きます。建築学会大会には4年生を含め全員が参加し、その後淡路島で中間発表を含むゼミ合宿を予定しています。本年度も活発に研究活動を進めていきたいと思っております。



新卒研配属時の集合写真(2014.4)

学年	氏名	研究テーマ
M2	後藤 賢人	地震・地盤震動
M2	谷田貝 淳	液状化・杭基礎
M2	山根 義康	超高層RC
M1	酒井 美月	超高層RC・杭基礎
M1	坂本 あいの	地震時行動
M1	天藤 潤一	地震・地盤震動
M1	渡邊 藤一郎	木造
B4	秋元 宏章	天井落下
B4	太田 成昭	木造
B4	奥野 通太郎	液状化・杭基礎
B4	尾崎 哲也	ヘルスマニタリング
B4	加茂下 直明	ヘルスマニタリング
B4	河野 陸哉	木造
B4	金 幸ソク	地震・地盤震動
B4	小宮山 征義	木造
B4	成島 慶	超高層RC
B4	橋本 拓磨	地震・地盤震動
B4	藤田 俊明	超高層RC
B4	堀 愛里香	地震・地盤震動
B4	三笠 睦実	地震時行動
B4	林 松	超高層RC

第1回なみの会 研究会 & 懇親会 お知らせ

第1回なみの会(東京理科大学理工学部建築学科地震工学系研究室-井口・永野研-OB/OG会)を計画しております。井口・永野の講演を含む研究会と懇親会の2部形式とし、下記の要領で実施予定です。

【日時】 2014年9月20日(土) 研究会:午後4時30分~午後6時20分

懇親会:午後6時30分~午後8時20分

【場所】 森戸記念館 東京都新宿区神楽坂4-2-2 飯田橋駅より徒歩8分

研究会:第2フォーラム(1F) 参加無料

懇親会:第1会議室(2F) 会費 OB/OG5000円 大学院生・学部生2000円

研究会・懇親会の出欠の返事をメール(なみの会事務局, iguchi-nagano-lab@rs.tus.ac.jp)もしくは同封のハガキにて、7月末日までにお知らせください。

懇親会だけでも構いません。同年代の方々をお誘い合わせ下さい。多くの皆様の参加をお待ちしております。



研究会および懇親会の場所



森戸記念館 第2フォーラム
(東京理科大学 HP より転載)

「なみの会」について

「なみふる」は地震を意味する古語で、「なみ」は地盤、大地を意味します。「なみ」だけで地震を意味するという説もあるようです。井口研、永野研では地震とともに地盤も主な研究対象となっていることから、OB/OG会の名称を「なみの会」としました。会の名称は肥田さんの提案によるものであり、右のロゴマークも手がけています。



事務局からのお知らせ

現在、井口研・永野研 OB/OG 会の名簿を整理しています。同封のハガキにて、最新の連絡先等を記入して返送していただけますでしょうか。また、LINE や FACEBOOK 等でお知り合いの OB/OG の方がおりましたら、メール等にて事務局までお知らせください。

なみの会事務局 iguchi-nagano-lab@rs.tus.ac.jp

〒278-8510 千葉県野田市山崎 2641 東京理科大学理工学部建築学科 永野研究室
(担当：永野正行，涌井栄治，佐藤利昭，肥田剛典)

